

## 鹿角市Uターン者の起業活動に関する研究プログラム

プログラム概要	: 幅広い業界のUターン者、起業家に訪問取材
実習先	: 秋田県鹿角市
実習先情報	: <a href="https://www.city.kazuno.akita.jp/">https://www.city.kazuno.akita.jp/</a>
参加人数	: 12名
学部学科	: 経営学科
実習期間	: 令和4年9月12日～9月17日
本学担当教員	: 姜雪潔(経営学科)

### ○はじめに

鹿角(かづの)市は秋田県の北東部に位置し、自然にあふれた地域である。なぜそんな地域に訪れたかという、「移住者」にある。鹿角市は秋田県内移住者数で秋田市に次ぐ第2位であり、Iターン者も他の地域より少なくない。そこで私たちは移住者に対して、今なにをしているのか、数ある地域のなかでなぜ鹿角市を選択したのか、移住の目的と共に鹿角の魅力を調査した。

### ○実習内容

#### 1. 「講義で学習」

事前学習で、地域おこし協力隊や空き家バンクなど、鹿角に関するキーワードを1人1人が下調べを行ったため、インタビュー時の理解がスムーズに進んだ。現地の講義では鹿角市の移住動向や、関係人口及び市の施策について学んだ。

#### 2. 「現地インタビューの実施」

全10人の方に移住の経緯や事業内容について話を聞いた。質疑応答の時間もあり、各々興味を抱いた点や疑問点を自由に質問した。

#### 3. 「鹿角地域の散策」

令和3年にユネスコ世界文化遺産に登録された「大湯環状列石」をはじめとした、数々の文化財に訪問。道の駅や市街地の商店街も散策し、鹿角ならではの風情を感じた。

#### 4. 「成果報告会」

市長や本プログラムに協力頂いた方を招いて1時間半程度の報告会を実施。これまでの調査結果を基に、鹿角との関わりしろなどの提案を行った。

A班「Uターン者のポテンシャルを活かそう！」

B班「Iターン者を巻き込もう！」

C班「実は働きやすい鹿角！」



## ○提案したこと、発信したこと

報告会にて1グループ4人の全3グループに分かれて以下の3点を提案した。

1. 「鹿角の魅力」  
地域、風土、文化、人の4種類の点で、私たちが実際に感じたことを伝えた。
2. 「鹿角ライフモデル」  
いくつかの調査対象をピックアップし、共通するキーワードを伝えた。
3. 「鹿角との関わりしろ提案」  
現地の人気が付いていないであろう鹿角でのあり方を伝えた。

## ○経験したこと、学んだこと

5泊6日を、空き家で共同生活を行った。コロナ禍であったが安全対策を講じて対面にてプログラムを遂行した。東京では味わえない景色を堪能し、地元の美味しい料理をいただいた。学んだことは2つの面からなる。1つ目は知識面について。移住施策の特徴や市の情報発信方法について学んだ。例えば、雑誌に特集として掲載してもらうことが新鮮だった。また実際に移住者にインタビューすることで移住することに対する雰囲気を感じ取れた。移住経緯を聞いたため過去のいきさつを知れた。2つ目は人のやさしさについて。武蔵野大学と鹿角市が包括連携協定を結んでいたこともあり、市の全面バックアップで実施された。とはいえ調査先までの運転や各地での解説など細かい点まで支援してくださり、ありがたみを感じた。

## ○今後の展開、今後の学び

本プログラムで得た内容を活かし、興味を広げていく。鹿角を先行事例として同じような境遇地域の課題解決を行い、鹿角市の魅力を当事者として情報発信していく。

## ○まとめ

鹿角市のような山奥に属し、少子高齢化に悩む地域は数多く存在する。そこで市や町はU・Iターン者の誘致を試みるが、必ずしも成功しているわけではない。目と鼻の先にある支援金に力を入れるのではなく、もっと情にあふれた支援策を含めて、地域の魅力を発信していくことが必要なのではないだろうか。

## ○担当教員コメント

僅か5泊6日間で学生たちの成長に驚いた！地域のために一生懸命な方々の思いを学生が肌で感じ、その働きぶりに感化され、地域のために少しでも良い提案をしようと寝る暇も惜しんで必死に考えていた。プログラムを通じてできたご縁で、これまでの学生生活で持てなかつたようなつながりも増え、今後の成長も楽しみです！

